

意欲的に学習に取り組み、学び合い高め合う生徒の育成



弥彦村立弥彦中学校

1 実践の概要

(1) 主題設定の理由

社会の中で幸せな人生を送るためには、適切なキャリア発達が必要である。しかし、現在の弥彦中学校の生徒は、幼少期から人間関係の範囲が限定されており、適切なキャリア発達に必要な基礎的・汎用的技能の獲得が不十分である。そのため、以下のような課題が見られる。

- ・ 目的意識や進路意識が希薄であり、新しいことへの挑戦や、困難な課題を避ける傾向がある。
- ・ 世の中の出来事（社会的事象）に対する関心が薄く、狭い世界で満足する傾向がある。
- ・ 自己節制することや、物事に粘り強く取り組む姿勢に欠ける。

また、NRTや全国学力・学習状況調査をはじめとする各種検査・調査の結果から、学力や学習意欲の二極化が顕著であることも明らかになっている。

以上の点から、「学習や課題に進んで取り組もうとする姿勢」と「他者との交流によって自分を成長させる態度」を育てることが、今年度も弥彦中学校の重点課題であると考え、上記の研究主題を設定した。そしてNIEの活動を、課題解決の方法の一つとして昨年から組み入れてきた。

(2) 目指す生徒の姿～主題と新聞とのかかわり

本校では、年度初めに「方向性研修」を行っている。この研修は、全職員が生徒の実態や目指すべき姿について、自分の考えを述べ、その中で「生徒を成長させるための取組がどうあるべきか」という方向性を探るものである。

ここ2年間の「方向性研修」で挙げられた、目指す生徒の姿を要約すると、以下の通りである。

- ・ 目的意識をもち、その実現に向けて、様々なことに前向きに取り組む生徒。
- ・ 学習内容と社会的事象とを結びつけて捉え、積極的に周囲や社会に関わろうとする生徒。
- ・ 自分の生き方や生活を客観的に反省し、より良い方向へ成長していこうとする生徒。

これらの姿を実現するために、授業に学び合いを導入し、その発生・促進ツールとして新聞を利用するというのが、本校の研究の根幹である。

(3) 研修体制と今年度の実践の経過

(昨年度の研究の概要は、『2015NIE実践報告書』をご覧ください)

今年度の研修は、以下のように行った。

時期	N I Eに関する研修内容	その他の研修内容
4月	○研修計画とN I E実施計画の作成・決定 ○研究発表会実施計画（1次案）決定	○方向性研修（目指す学校の明確化）
5月	○N I E日常活動の継続	○生徒理解研修
6月	○校内N I E全体研修①（授業構想の検討）	
7月	○研究発表会に向けた指導案の作成	○N R T分析
8月	○校内N I E全体研修②（指導案の素案検討） ○グループ別研修（指導案の検討）	○ライフスキル研修 ○人権教育，同和教育研修
9月	○グループ別研修（指導案の修正） ○グループ別模擬授業・検討会	
10月	○研究発表会に向けた指導案の最終検討 ○研究発表会実施計画（最終案）決定 ○プレ授業（31日：道徳・学活）	○全国学力・学習状況調査分析
11月	○プレ授業（16日：理科） ○研究発表会（22日）	
12月	○実践報告書，研究紀要作成準備	

今年度は、昨年度までの1人1公開授業を見直し、学活・理科・道徳の3つの研修グループを編成した。そして、グループ別研修による指導案作りを研修の中心に据え、1つの授業について、様々な年齢層・担当教科の職員からアイデアを出し合い、約半年をかけて授業を作り上げてきた。

グループ別研修を行ったことで、職員間にも「全員で研修を進めよう」という意識が生まれた。また、実際の授業を想定した指導案作りにより、実践的で柔軟な研修を行うことができた。

10月31日（月）には、新潟大学教育学部附属新潟中学校副校長の津野庄一郎様を指導者に迎え、学活・道徳の2つのプレ授業を実施した。当日は、研究発表会を想定し、本番と同様の構成で授業を展開した後、グループごとの協議会と全体会を行った。

指導者からは、「新聞記事の数を絞り、学習課題を焦点化すべきである」「生徒の目指すゴールを明確にする必要がある」などの貴重な助言をいただいた。

また、生徒が実際に活動する姿を観察することで、時間配分のまずさや、学習課題のあいまいさ、話し合う方法の不徹底といった問題点を洗い出すことができ、有意義な研



理科の模擬授業の様子（9/29）



学活のプレ授業の様子（10/31）

修となった。

(4) 新聞に親しむ活動

①N I Eコーナー，新聞閲覧コーナーの設置

各学級や学年の掲示板上にN I Eコーナーを設置し，新聞記事を紹介した。環境問題，ラグビー日本代表の活躍，人口減少問題，地域の話題，健康問題等などの記事を紹介したほか，同じ内容を報じた記事について，各新聞社の見出しの違いを比較できるような環境を整えた。また，教務室前の廊下を利用し，いつでも，誰でも新聞を手にとって読むことができるスペースを設けた。



新聞の閲覧スペース

②新聞の学級配付

各学級に新聞を1部ずつ配布した。これにより，常に学級に新聞がある環境を整え，生徒が気軽に新聞を閲覧できるようにした。また，終学活の際に，日直がその日の「気になるニュース」を紹介し，内容や感想をまとめてスクラップする活動を続けた。



全学級で取り組んだスクラップ活動

(5) 新聞を活用した活動

①広報委員会によるアンケート活動

生徒にも「自分たちの手で新聞を活用している」という意識をもたせるために，生徒会広報委員会によるアンケート活動を行った。「新国立競技場デザイン」や「18歳選挙権」などを題材として，社会的事象への関心を高める活動を行った。



参院選についてのアンケート結果（7月）

②道徳・学活や学級だよりでの新聞活用

社説や人生相談コーナー，人物紹介，投書などの記事を利用し，道徳や学活の授業を行った。具体的には，人生相談の相談内容に，自分ならどうアドバイスするかを考えさせたり，人物紹介を取り上げ，その生き方をどう感じるかを書かせたりした。また，学級だよりに，生徒と同年代の読者による投書を転載し，同じ中学生がどのような考えをもっているかを知る機会を設けた。



投書を転載した学級だより

③授業での新聞活用

ア 社会科の授業で，生活と密接に関連した記事を教材として利用した。また，時事的な問題を扱った記事については，別に取り上げて紹介し，生徒が社会的な事象に関心を持てるように工夫した。

イ 国語科の授業（2 学年）で、『新潟日報』の投書欄や、文芸欄への発信を行った。具体的には、授業で作成した俳句や投書を実際に投稿し、投書欄には 8 名が掲載、文芸欄には 5 名が入選した。短歌では年間の佳作を 2 名が受賞した。

また、新聞記事感想文コンクールにも学校として応募し、団体賞を受賞した。

ウ 総合的な学習で行った職場体験（2 学年）や修学旅行（3 学年）のレポートづくりにおいて、新聞の紙面構成を参考にしながら、レポートを作成した。



社会科で利用した記事の一例

2 実践例（公開授業について）

（1）公開授業のテーマ

- ① 1 年生 学級活動 単元名「働くことの意義」
- ② 2 年生 理科 単元名「気象予報 ～天気図から自然災害を予想しよう～」
- ③ 3 年生 道徳 主題名「人気のゲームと社会のルール」

（2）授業と新聞とのかかわり

学活（1 年 2 組）	働くことの意義
<p>本単元では、職業を紹介する 1 つの記事を利用する。この記事は、単に職業の内容を解説するものではなく、働く人の職業観や、仕事をする上でのやりがいについてインタビューしたものである。生徒は前時に、「仕事を選ぶときに大切にしたいこと」を考えている。そして、プロスポーツ選手や内閣総理大臣などの給料額を知ること、仕事を選ぶ基準として「給料」があることを理解している。ところが、この記事は「給料」について触れていない。授業では、学び合いを通して、このギャップの意味について考え、働くことの意義を多面的に捉えられるようにする。これにより、進路意識を高め、目的や目標に向かってチャレンジする姿勢を育てる。</p>	
理科（2 年 2 組）	気象予報～天気図から自然災害を予測しよう
<p>全国各地に大きな被害をもたらした自然災害について報道した複数の記事を利用する。記事を通して、生徒はこれまでに学習してきた天気に関する知識が、日常生活と密接に関連することを理解する。授業では、天気図と記事の内容を結びつけ、「どの天気図がどの自然災害につながったのか」を推測する。そして、各自が導いた結論をグループ内で検討し、1 つの結論へと集約させていく過程に学び合いが発生する。これにより、学習したことを生活の中に生かし、自分の生活と関連付けて考えられるようにする。</p>	
道徳（3 年 1 組）	「ポケモンGO」が起こした社会現象
<p>スマートフォン向けゲーム「ポケモン GO」が誘引した様々な問題について報道した記事を利用する。この記事の窓口として、生徒は社会的現象と自分の生活とを結びつけることが可能となる。その結果、今起きている問題をより身近でリアルなものとして捉えることが可能になる。授業では、記事に紹介された問題点を読み取り、学び合いを通してメディアとの適切な付き合い方についての考えを深め、道徳的実践力を高められるようにする。これにより、強い意志をもって自分の生活をより良い方向へと高めていく態度を養う。</p>	

(3) 授業の展開

◆ 1年生 学級活動

ア ねらい

- ・実際に働いている人々の思い（喜び、努力、工夫など）を知ることにより、いろいろなやりがいを感じながら働いていることに気付く。

イ 展開

過程	生徒の学習活動	生徒の学習活動
導入 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のワークシートと新聞記事を確認する。<u>（『朝日中学生ウィークリー』夢ナビ</u> ・<u>お仕事レポートから</u>） 	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート結果を黒板に貼っておく。 ○前時に用いたワークシートと新聞記事を配付する。 ○「今日は『働くこと』の2時間目です。では課題を確認します。」
課題 働いている人は、どんな気持ちや考えで仕事をしているのだろう。		
展開 (35)	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で新聞記事を読む。また、線を引き、ワークシートに書いた部分を確認する。 ・司会、記録の名前を書く。 ・班の隊形をつくり活動1に入る。 ※会話を通して一人ひとりに合った旅行プランを提案しています。 ※常に個々のお客さんに合ったオリジナルのプランを考える。 ※個人的に毎月1回は旅行に行って情報収集するほか、普段からテレビや雑誌などで新しい観光スポットなどをチェックしています。 ※会社主催の勉強会に出席したり、社員同士で情報交換したりして、新しい情報を仕入れるようにしています。 ※お客さんが旅行で楽しい思い出を作ってくれることがやりがいです。 ・進行表の活動2に沿って話を進める。また、短冊に記入する。 ※「一人ひとりに合ったものを」 ※「お客様の喜びが自分の喜び」 ・座席を通常の隊形にもどす。 ・1班から順に発表する。 ・短冊は授業者に。授業者は黒板に貼る。 ・各班の発表を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「新聞記事をもう一度読みましょう。特に、前回『気持ち』や『考え』に線を引きワークシートに記入した部分を確認しながら読んでください。時間は5分間です」 ○「では、線を引いた『気持ち』や『考え』を班で確認します」 ●グループ活動進行表を配付する。 ○「各班の司会、記録の名前を書いてください。その後、班の隊形をつくり、進行表に従って話を進めてください」 ●机間指導。単なる伝達で終わらないようにする。 ○「終了です。次は、線を引いた部分を簡単な短い言葉でまとめましょう」 ○「座席を戻してください」 ○「1班から順に発表してもらいます。司会は短冊を持って、前に出てきてください」 ○「同じような意見が出てきました。相手を理解すること。努力すること。そして、人の喜びが自分の喜びだということ」 ●1～6班のまとめを見て、共通点や相違点を整理する。
終末 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を書く。 ※相手を理解しないといい仕事ができない ※人に喜んでもらえるように仕事をする ・何人かが全体発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返り「記事を読み、話し合うことで考えが広がったり、深まったりしたことをプリントに書きましょう」 ●新聞記事を読んだ前と後の変化に注目。 ●数名を指名し、発表させる。

ウ 評価

職業を選ぶ際には、給料だけでなく、人の役に立つ喜びや仕事のやりがいが求められていることに気付くことができる。

◆ 2年生 理科

ア ねらい

- 提示された天気図を見て、災害が起きた理由を、等圧線の間隔、低気圧・高気圧、停滞前線等の前線、台風等の言葉を使い、説明できる。

イ 展開

過程	生徒の学習活動	○教師の支援、●留意点
導入 (10)	<p>等圧線の間隔、低気圧や高気圧、停滞前線等の前線、台風等の既習語句を思い出す。</p> <p>現在学んでいることと自然災害が関連しており、学習が生活に役立つことに気づく。</p>	<p>○学習を振り返るために、既習の語句を問い、板書する。</p> <p>新聞記事は「新潟日報」から提示</p> <p>○災害が起きた時の新聞記事を紹介する。 (記事? 新潟7.13水害)</p> <p>●学習した言葉が生活に生かされていることを知るために、見出しとリード文を読む。</p>
展開 (10)	<p>課題： 自然災害が起きた時の天気図を選び、その理由を習った言葉を使って正しく説明しよう。</p>	
	<p>3枚の天気図について、起きた自然災害と起きた理由を既習語句を用いて考える。はじめは1人で考え(3分程度)、次に班で意見を交流させ、班としての考えをまとめる(3分程度)。</p>	<p>○天気図を3枚配布し、自然災害が起きた理由を考えさせる。</p> <p>●天気図(A、B、C)を提示する。</p> <p>●意見を交流しやすいように、ホワイトボードを活用する。</p>
(20)	<p>災害が起きると予想される天気図と、新聞記事を組み合わせ、その根拠を班で話し合う。</p> <p>班の考えを発表する(各班1分)。</p> <p>全体で意見交換した後、最終的な個人の考えをノートに記述する。</p>	<p>○災害が起きた時の新聞記事を配り、天気図との組み合わせを考えさせる。(記事①、②)</p> <p>●各班の考えが共有できるように、ホワイトボードを黒板に掲示する。</p> <p>●終了した班は、残った天気図ではどのような災害が起こり得るのか考える。</p> <p>○個人の考えをノートに記録させる。</p>
終末 (10)	<p>自分の考えと正解を照らし合わせて、根拠を確認する。</p> <p>授業の始めと違い、災害が起きた時の天気図を選び、その理由が説明できるようになったことを確認する。</p>	<p>○正解を生徒の意見を入れつつ説明する。 正解 天気図A-記事①(広島豪雨) 天気図C-記事②(新潟大雪)</p> <p>●他の災害が起きたことを知らせるために、記事③、④を提示する。また、生徒が災害に注目できるように、記事③、④は見出しとリード文、写真のみ提示する。</p> <p>○天気図Bでも災害が起こったことを紹介し、記事⑤、⑥(高知最高気温記録)も紹介する。</p> <p>○もう一度、災害が起きた要因を、天気図と学び合いの結果から、ノートに記入させる。</p> <p>○授業の振り返りをさせる。</p>

ウ 評価

- 提示された天気図をみて、災害が起きた理由を等圧線の間隔、低気圧や高気圧、停滞前線等の前線、台風等の言葉を使って、説明できるようになったか。

◆ 3年生 道徳

ア ねらい

○社会の一員として、何を大切にすべきなのかを考え、その意識を高める。

イ 展開（新聞記事は「新潟日報」「毎日新聞」を使用）

過程	生徒の学習活動	○教師の支援●留意点
導入 (3)	<p>○今年も残すところあと1ヶ月ちょっと。世の中のこと、学校のことでもいいので心に残っている出来事を発表し合う。 (例) 熊本地震、リオオリンピック、ポケモンGO流行、修学旅行、体育祭等。</p> <p>○その中でも今日は「ポケモンGO」について学習することを覚える。</p> <p>○画像を見て「ポケモンGO」のゲームを理解する。</p>	<p>○教師の支援●留意点</p> <p>*PC、電子黒板を準備。 ●テンポ良く発言させていく。 ○プロジェクターで今年の出来事を提示する。</p> <p>○「ポケモンGO」に関して知らない生徒にもイメージをもたせるため、新聞記事を使って端的に説明する。→電子黒板</p>
展開 (40)	<p>○「ポケモンGO」は様々な問題を引き起こしたが、もう一度、みんなで記事を確認する。</p> <p>○問題点をワークシートに書く。 →2つ以上書く。(制限時間5分)</p> <p>○発表する。</p> <p>交通事故(死者も)、不法侵入、人が集まりすぎて迷惑、不正アプリ、課金により多額の代金等。</p> <p>○新聞の見出しに注目し、理解を深める。</p>	<p>*配付・・・新聞記事、ワークシート</p> <p>○机間指導をし、的確に書かれているかどうか確認していく。1つ以上は書けると思うのでたくさん書ける生徒はどんどん書くように促す。</p> <p>○発表した意見を教師が黒板に類型化しながら、学級の意見として共有する。</p> <p>○新聞の見出しをデータ化したものをズームにして確認させる。 ●「個人の問題」に焦点を絞る。</p>
<p>発問1 なぜ、社会のルールを守れないのだろう。</p>		
	<p>○なぜルールは守れないのか、一人2つ考え、付箋に書く。(制限時間5分) →1つの付箋に1つの意見を書く。 ・新聞記事や板書等を見ながら書いている。</p> <p>○5分経ったら班を作る。</p> <p>○自分の考えを述べながら付箋紙を貼り、グルーピングしてキーワードをまとめる。</p> <p>○もとの席に戻る。</p> <p>○発表者は班で出された意見を発表する。</p> <p>・楽しくてやめられない。・自分勝手。 ・意識が低い。・みんながやっているから。 ・注意する人がいない。・周りにつられてしまう。・自慢したい。等。</p>	<p>*配付済・・・ワークシート、付箋</p> <p>●個々に考える時間を与える。</p> <p>○机間指導をし、書けない生徒には、ヒントを与えながらアドバイスする。</p> <p>●班長は発表が苦手な生徒に配慮すると同時に多様な考えを視覚的に分かりやすくまとめ、班の考えをはっきり提示することができるようにする。</p> <p>●教室全体に聞こえる声で堂々と発表させる。</p> <p>●先日の愛知での死亡事故の記事と市長への嫌がらせのメールの記事を提示する。</p> <p>○社会ではルールは大切なもの。でもそれを守るのは本人次第。こんな記事を見ると、この世の中、何か大切なものが忘れられているのではないかと問いかけ、個々に考える。</p>
<p>発問2 さあ、その大切なものとは何でしょう。</p>		
	<p>○ワークシートに自分の意見を書く。(制限時間5分)</p> <p>・仲間の感想を聞いて多様な考え方に気づく</p> <p>「思いやり」「気づかい」「助け合い」「流されない強い気持ち」「想像力」等。</p>	<p>○机間指導をし、書けない生徒には、ヒントを与えながらアドバイスする。</p> <p>○机間指導しながら、班活動後の考えの深まりを認める。</p> <p>●できるだけたくさんの生徒に発表させる</p>
まとめ (7)	<p>○今日の話し合いを受けて、今後自分としてはどのようなことに気をつけて生活をしていきたいか、考えたことをワークシートにまとめる。</p> <p>・考えが良い方向に変容したり、さらに深まったりしている。</p>	<p>●社会全体で起こっている問題で、自分に関係ないということはないということに気づかせたい。</p>

ウ 評価

・ルールの意義を理解し、社会の一員として大切なことは何かを考えることができる。

3 成果と課題

(1) 成果

「意欲的に学習に取り組み、学び合い高め合う生徒の育成」を目指し実践を開始して、3年目になる。この間「授業のめあてと流れの揭示（特に本時のめあて明示と振り返り）」や「学び合い場面の設定」を柱に、さらにNIEを活用した「学び合い」の設定等、授業改善に取り組んできた。その結果、今年度の「全国学力・学習状況調査」において、すべての教科で全国平均を上回った。

9月に発行された「全国学力・学習状況調査」報告書で、「生徒質問紙と学力のクロス分析」が行われている。その中のいくつかの質問で、以下のように回答している生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られると分析されている。弥彦中は（49）で平均を上回り、（51）でもほぼ同程度の値を示しており、授業改善の成果が現れていると考えられる。

（49）1，2年生で受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思う。

【肯定的回答 92%（弥彦中） 84.5%（県） 77.6%（全国） H27 76.4%（弥彦中）】

（51）1，2年生で受けた授業では、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか。

【肯定的回答 80%（弥彦中） 81.4%（県） 82.3%（全国）】

授業のめあて・ねらいの明示は、94.7%と全国を10ポイント近く上回り、振り返りの実施についても89.3%と全国を25%以上上回った。

NIE関連では、新聞を毎週何らかの形で読む割合は、昨年と今年度では17%から28%へ、地域・社会で起こっている問題に対し関心があると肯定的に答えた割合は、49%から69%といずれも前年度を上回った。身近に新聞があることが、好影響を与えている。

(2) 課題

2年間の実践を通して、新潟大学附属新潟中学校副校長の津野庄一郎様よりご指導いただいた。津野様からは、2年間の実践を評価いただくとともに、「キャリア教育とNIE」という視点から次のような指導をいただいた。

（1）NIEを通して「情報を取り出す力」「情報を解釈する力」「情報を関係づけて考える力」を育てていくことが重要である。

（2）そして、新聞の活用・教材化により社会の対象にしっかりと入り込ませ、自分の世界の外にある社会、他者との出会いからよりよい生き方を学んでいくことが求められる。

（3）そのためには、学習の単元を通した「良質な問い」を設定し、生徒の学びのスイッチを入れていくことが不可欠である。

弥彦中の生徒の実態を考えても、大変示唆に富むご指摘であった。キャリア教育の視点で日常の教育活動を見直していく必要を再確認した。